

令和8年度 府中市立府中第八小学校 学校経営計画

◇誠実・創造◇

府中市立府中第八小学校
校長 森嶋 正行

1 教育目標(重視する「育成を目指す資質・能力」)

持続可能な社会の創り手として、共生社会を豊かな創造性と人間性で、主体的に生き抜く児童を育成するため、次のとおり、学校目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

学び続ける子	様々な課題を主体的に解決しようとする児童	「社会参画力」
仲良く助け合う子	違いを認め合い、みんなと共に生きていこうとする児童	「人間関係形成力」
たくましい子	なりたい自分に向けてあきらめしないで努力する児童	「自己実現力」

(2)学校の教育目標を達成するための基本方針

重視する資質・能力「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」の育成を図り、学校教育目標を実現するために、次の基本方針を掲げ、カリキュラム・マネジメントの推進を図る。

ア 学び続ける子:「社会参画力」を育成するために

- ・各教科等における言語活動を重視するとともに、問題を主体的に把握し、自分で考え、友達と協働しながら問題解決を図る学習を推進する。
- ・学級活動や委員会活動等の自発的な活動を通して、課題を自分たちで見出し、意思決定や合意形成をしながら課題を解決できる力を育成する。
- ・持続可能な社会の構築を目指し、各教科等の学習内容と関連付けながら、環境、人権等の課題を自らの問題として捉え、課題解決に向けて自分で考え実践していくことができる力を育成する。

イ 仲良く助け合う子:「人間関係形成力」を育成するために

- ・集団における協働を大切にして、児童一人一人が自己の役割を自覚した体験活動を積み重ねる中で、互いを尊重し合ったり、互いに高め合ったりする教育活動を充実する。
- ・道徳科を要として、道徳教育の推進を通じた学校教育全体を通じて、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

ウ たくましい子:「自己実現力」を育成するために

- ・児童が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにする機会を、意図的・計画的に設定し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する。
- ・授業、教室環境等のユニバーサルデザインを図り、全ての児童が学びやすい環境を創造すると共に、学んだことの意義を実感できる学習活動の充実を図り、主体的に学びに向かう態度を養う。

エ 学校教育目標の達成に向けたその他の事項

- ・創立70周年の意義を踏まえ、自分の学校や地域に誇りをもち大切に思う児童を育成する。
- ・人権教育を推進し、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶことにより、いじめ未然防止、不登校ゼロにつなげる。
- ・登下校や放課後の安全について、意図的、計画的な安全指導により事故の未然防止を図る。
- ・幼保と府中九中との授業連携や情報交換を行い、系統性、継続性を重視した教育を推進する。

2 目指す学校

「みんなで考え、みんなで創る、誰かのために役に立つ喜びのある学校

～かしこさ、優しさ、逞しさ」

本校は創立70周年の佳節を迎える。70年の歴史は、是政、清水が丘の地域住民とともにあった学校である。創立70周年の学校経営のキーワードは「誠実」と「創造」。地域の宝である児童を保護者、地域の方と共に育む学校を目指す。

本校では、教育目標の実現に向けて、以下の目指す学校を掲げる。

(1) 優しさのあふれる誠実な学校

- ・子供の心に徹して寄り添う温かい学校
- ・子供の良さを認め、かけがえのない一人であることを惜しみなく伝える、励ましの学校
- ・子供の思いと保護者の願い、地域の声に誠実に対応する学校

(2) お互いを尊重し認め合いながら、学び合う切磋琢磨する学校

- ・友達と学び合い、切磋琢磨する中で共に笑顔が輝く学校
- ・自分たちの学級、学校を自分たちで創る喜びを感じる学校
- ・全教職員が創造性を働かせ、信頼と期待を寄せられる活気ある学校

(3) 地域の学校を地域の皆様とともに育てる学校

- ・保護者、地域住民の皆様のご支援と御協力のもと、全教職員がチームで子供を育む学校
- ・創立70周年の佳節を児童、保護者、地域住民とお祝いし、伝統を大切にしながら、新たな歴史を刻む創造的な学校

3 中期的目標と方策

急激に変化する共生の時代の中で、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育成するグローバル教育を推進する。

◇創立70周年を中心とした三年間(令和7年から令和9年)を次の十年を決める3年間と定め、地域住民・保護者・卒業生と在學生、教職員が一体となり、新たな歴史を刻む三年とする。

- ・府中第八小学校の歴史と伝統を学ぶ中で、自分の住む町と学校に誇りをもち、様々なことに主体的に関わろうとする児童を育成する。
- ・鼓笛活動、稲作体験を中心に「未来へつなぐ府中2020レガシー」を推進し、SDGsが目指す「誰も取り残さない」という視点に基づき、各教科等の横断的な取組によりグローバル教育を推進する。
- ・スクール・コミュニティ協議会、保護者・地域の皆様の様々な御意見を踏まえ、児童の成長と学校の発展の為に創造的に学校経営を行う。

4 基本方針

(1) 楽しい学級、楽しい学校、楽しい学びを創造する、かしこさ、優しさ、逞しさをあわせもつ児童を育てる。

- ・一人一人の児童に細やかに関わり、いじめの未然防止、スピードある対応を行うこと
- ・学校生活になじめない一人一人の児童、保護者に寄り添い、継続した支援に取り組むこと
- ・特別支援校内委員会を中心に、全教職員で情報を共有し、児童のよさが発揮できる支援を行うこと
- ・鼓笛活動、特別活動の取り組みを大切にし、児童が考え、行動し、みんなが楽しいと感じる学級、学校を創る喜びを感じる取り組みを行うこと
- ・意図的計画的な教育活動により、事故の未然防止を図ること

- (2)基礎的基本的な学力の定着、体力の向上を図る。
- ・小中 9 年間で特に重視して育成を図る資質・能力「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」を「発見すること」「決定すること」「対話すること」「表現すること」の 4 つの学びを重視して取り組むこと
 - ・読書に親しみ、読書を楽しみ、読書に挑戦する児童を育てること
 - ・各教科と道徳・特別活動の往還の取り組みを重視し、自分のかかわる人やもの、ことをよりよくする為に主体的に考え、行動する子供を育てること
- (3)規律ある学校の中で、児童の自主的自発的な取り組みを図る。
- ・あいさつ、返事、靴箱・傘立ての整理整頓ができる児童を育てること
 - ・集団生活での学校、学年、学級のルールを守ること
 - ・授業、教室環境等のユニバーサル化を図り、どの子も学びやすい環境にすること
- (4)スクール・コミュニティ協議会を核とした保護者、地域住民との連携を重視する。
- ・スクール・コミュニティ協議会と密に連携を取り、学校と保護者、地域住民が共に児童の成長を考え、創造的に学校の発展を推進すること
- (5)全教職員が児童の実態や教育課題について共通理解を図るためのコミュニケーションを重視する。
- ・基盤となる学級経営の充実のために、各教科等の学び合う授業と、学級活動や児童会活動、学校行事で目指す児童像を全教職員で共有し、チームで取り組むこと
- (6)府中第九中学校と府中第八小学校の小中一貫教育の推進を図る。
- ・九年間を見通した子供の育ちと学びの系統性と継続性を重視した教育を推進すること
 - ・年3回の小中連携の日を中心に、連携の具体化を図ること

【数値目標】 学校に行くのが楽しい。(児童)95%以上
 子供たちは毎日楽しく学校に通っている。(保護者)95%以上

5 重点目標と方策

- (1)小中 9 年間で特に重視して育成を図る資質・能力「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」を「発見すること」「決定すること」「対話すること」「表現すること」の 4 つの学びを重視して取り組む。
- (2)創立 70 周年の佳節の意義を踏まえ、教科等、学級活動、児童会活動、学校行事を通して、児童の主体的な関わりの中で、自分の学校と自分の住む町に誇りと愛着のもてる学びを推進する。
- (3)育成すべき資質・能力の重要な視点として、鼓笛活動を柱にした「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を目指し、特別活動・道徳と各教科の往還的な指導を意識した教育活動に取り組む。
- (4)新校舎の施設のよさを生かした友達と学び合う授業、友達と関わりのある活動を重視した教育活動を創造的に取り組む。

【学習指導】

1 主体的な学び・学び合いの学習活動

- (1)研究開発部を核とした校内研究を重視する。主体的対話的な深い学びの実現の為に、一人 1 台のタブレットを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。
- (2)児童の主体的な学び・学び合いを重視し、「問い」「見通し」「振り返り」を常に確認し、どの児童にとっても学びのある授業を目指す。
- (3)基本を意識する授業
- ・授業の始めと終わりのあいさつを意識する。チャイムと同時に始めチャイムの前に終わる。
 - ・授業での『返事の「はい」』『語尾を意識させる「です」』を行い、学び合いを重視する。
 - ・聞くこと・書くことを大切にす。
 - ※発言する人に意識を向ける為の、聞く姿勢を意識させる指導を重視
 - ※単語での発言ではなく、文を意識させることを重視

※立って発言させること。しっかり聞こえる声の大きさでの音読や発言の繰り返しを重視
(4)身近なことから他者、世界を意識した学びへ。自分に帰る学びで帰結することを意識する。

(5)教員の授業力の向上の為、校内研究の充実を図る。

〈研究主題〉 『主体的に学び続ける児童の育成』

〈研究の内容〉 講師を招いた研究授業を中心とした研究を行い、深い学びを実現する。

問い : 児童が主体的に学ぶ教師から児童への問い、児童の問いを大切にした授業展開を重視する。

見通し : 自分達で考えた課題を解決するために、学び方を選択し、新たな気付きや疑問から学ぶ道のりを調子していく

振り返り: 気付きを得て、振り返りながら、学ぶ振り返りと学びを振り返る振り返り

(6)授業の基本的な流れの確認: ねらいの意識→課題解決型学習→まとめ(振り返り)

(7)児童の個々の学習能力を高める「ノート指導」の充実

・授業等でのデジタル教材の積極的な活用と合わせて、ノートを積極的に活用する。

・学習の振り返りのできる板書の工夫: 学年の実態に応じたノートの充実

(8)教室環境のユニバーサル化と学校、学年の統一感を重視する。

・整理整頓、教室掲示の工夫と統一感、教室の黒板、ホワイトボードの効果的な活用

2 読書に親しみ、読書に取り組む児童の育成

- ・自分を知る、他者を知る、世界を知るための読書を推奨する。全学年で読書記録を活用し、時間を作って少しでも読書に取り組もうとする児童を育てる。朝読書は児童と教員が共に読書する時間とする。
- ・全学年で読書記録帳を活用し、各学年が読書目標を設定し、朝読書等を通して、読書に親しみ、読書に取り組む児童を育成する。読書目標: 低学年100冊。中学年2000ページ。高学年3000ページとする。

【数値目標】 本を読むことは楽しい。(1、2年児童)90%以上
本を読んでいる。(3年から6年児童)80%以上
子供は読書に取り組んでいる。(保護者)60%以上

3 外国語活動(国際理解教育)の充実

- ・中学年(外国語活動)、高学年(外国語科)として、ALTをTTとした授業を展開する。
- ・児童が英語学習の成果を発揮し、主体的にコミュニケーションを図ることを目的に「世界とつながる英語 Enjoy Week」を設定する。
- ・英語でコミュニケーションを図る体験活動を通して、英語が「分かった」「通じた」という成功体験を得ることや、国際交流の楽しさや必要性を実感し、「もっと英語を学びたい」という意欲を高めることを目標に5年で「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS(TGG)」を実施する。

4 「特別の教科 道徳」の授業の充実

- ・自己を見つめ物事を多面的多角的に考え自己の生き方について考えを深めていけるようにする。
- ・思いやりの心や社会生活の基本的なルールを理解し、人と人、人と自然との豊かな関係に気付いたりする道徳的な心情を育む。

5 みのり(総合的な学習の時間)の充実

- ・未来へつなぐ府中2020レガシーを推進し、SDGsの視点に基づき、各教科等の横断的な取組によりグローバル教育を推進する。

6 家庭学習(自主学習)の定着

「家庭学習のすすめ」に基づき、デジタル教材を積極的に活用した、主体的な学びを重視した家庭学習を推進する。

- ・自主学習を推進するために授業等での取組の工夫を行う。

※自主学習目標: 低学年宿題 100%・中学年自主学習 50%・高学年自主学習 90%
宿題……………課題を提示し取り組む家庭学習

- 自主学習・・・自分で課題を設定し取り組む家庭学習
・小学校卒業までに自分で課題を決めて学習できる力を育成

【数値目標】子供たちは、自分から主体的に、家庭で学習をしている。(保護者)80%以上
学校は子供たちに自ら学ぼうとする力を付けさせようとしている。(保護者)90%以上

- 7 児童が運動の喜びを感じ、体力向上につながる取組の推進
- ・新体力テストの結果等を活用した授業の充実を図る
 - ・なわとび週間(ふちゅうロープチャレンジ)、マラソン週間等の実施
 - ・外遊びの奨励(生活指導部との連携、月1回のたてわり班遊びの取組)
 - ・地域スポーツ大会への児童の積極的な参加(保護者、地域との連携)

【特別活動】

- 1 特別活動・道徳科の充実 ～なすことによって学ぶ
- ◇特別活動で育つ資質・能力である「実践力」「人間関係形成力」「問題解決力」を実践的に育成する。
 - ◇学級経営を基盤とした教育活動～誰かのために役に立つことに喜びを感じる取組
 - ・全学級児童と決定する学級目標を設定し、教室にいつでも立ち戻る目標として掲示する。
 - ・学級活動(1)(2)(3)で計画・実施・振り返りのサイクルの中で、資質・能力を育成する。
 - ・1、2年生当番活動、3、4年生係活動、5、6年生委員会活動・鼓笛活動を重点に6年間で育成する。
 - ・様々な集団活動を通して、学級や学校生活の中から集団や個人の課題を見だし解決するための方法や内容をみんなで話し合い、集団として「合意形成」を図り協力して実践したり(学級活動①)、一人一人が自己の課題の解決方法について「意思決定」し実践したり(学級活動②③)して、よりよい生活や人間関係を築き、学校生活の充実と向上を図る。
 - ◇低学年、中学年、高学年の2年間で育成するよさを生かすため、取組の共通化、共有化を意識する。
 - ・1年目は学級、学年の基盤づくりの期間。
 - ・2年目は1年目に築いた基盤の上に、友達と協力して取り組む、誰かのために役に立つ経験を重視し、自分の成長を振り返り、希望をもって進級、進学できることを重視する。
 - ◇高学年(特に6年生)の姿に憧れを感じる声掛けや取組を通して、誰かのために役に立つ喜びを感じる活動を大切にする。稲作活動・鼓笛活動など。
 - ◇学級活動、道徳科を年間指導計画に基づき計画的に実施する。
 - ◇児童の主体的な活動を目指した児童会活動、クラブ活動、たてわり班活動の充実を図る。毎回の活動で児童に目標をもたせ、実施後に振り返りと次回の課題をもつことを丁寧に行うことで、児童が自分の取組のよさを知り、自己有用感を高める活動にする。
- 2 誰もが生きやすい共生社会の担い手としての資質・能力の育成を目指し、創立70周年を児童が主体的に取り組む一年にする。代表委員会、各委員会の取組やたてわり班活動での児童の取組に教師が積極的に関わり、リーダーとして取り組む児童だけでなく、特にそれを支えるフロアーの児童の育成を重視する。
- 3 6月の5年生わくわく自然教室、10月の6年生日光移動教室を実施し、日常とは異なる環境で共同生活を行う活動を通して、人間関係を築く力や規範意識、協働して課題を解決する力などの資質・能力の育成を目指す。
- 4 いじめ、暴力は絶対に許さず、校内の言語環境を整え、児童がいつも相談できる、児童と教師の強固な信頼関係と児童同士の温かな関係のもとでの教育活動を実施する。

【数値目標】稲作活動や鼓笛活動など、特色ある教育活動を充実させる。(保護者)95%以上

【生活指導】

- 1 生活指導・特別支援校内委員会・いじめ不登校対策委員会を核に組織的な取組
- ◇特別活動部と意識して連携し、児童が考え、話し合い、より良い集団を創る活動を通して、お互いを尊重し、誰もが楽しく充実した学校生活を過ごすことができる学校を目指す。

(1) いつでも、どこでも、誰とでもあいさつのできる子供を育てる。

「あいさつ運動」を中心に子供たち同士、教師と子供の温かな人間関係を構築する。

(2) 配慮の必要な児童への支援を関係機関と連携し、組織的に取り組む。

(3) 心の健康観察を実施するなど徹して児童、保護者の心に寄り添うかかわりを意識する。誠実、丁寧をキーワードに。

(4) 学校に行きづらい児童への丁寧なかかわり

- ・不登校や学校不適応、特別支援の配慮の必要な児童等に対して組織的に対応し、関係機関等との連携を深め、校内外の組織的な体制を充実させる。サポートルーム支援員と連携し児童の学校、教室の学習への参加に向けて、丁寧で思いやりのある対応を行う。

(5) 朝 8 時 15 分担任は教室で、専科は昇降口で明るいあいさつで児童を迎える。

(6) 府中八小いじめ防止基本方針に基づき、いじめ等の未然防止・早期発見・早期対応

- ・いじめに関する研修の実施(職員会議等年 3 回以上)

- ・いじめに関する授業の実施(学期初め年 3 回)

- ・いじめアンケートの実施と個人面談の実施(年 5 回)

2 人権教育の推進

- ・特別活動、道徳科を要に、教育活動全般を通して、違いを認め合い、みんなと共に生きていく人間関係形成力、自分も他者も幸せになる為に自分のできることを考え、行動する力の育成を目指す。

3 府中八小スタンダード(学習・生活・給食・掃除)の徹底

- ・八小のきまりを守って学校生活をする意識を高める指導を実施

4 安全教育の充実

- ・安全指導年間計画に基づき、各教科・領域と関連付けて、児童の発達段階に応じた安全教育の充実を図り、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動と結び付けることができる資質・能力を育成する。

- ・交通事故ゼロのために、府中警察と連携し、自転車に乗るときの交通ルールやヘルメット着用の徹底や交通安全に関するコンクールへの参加を積極的に呼びかけるなど交通安全教育を重視する。

5 食物アレルギー児童のための適切・確実な対応と事故の防止

- ・児童の食物アレルギーに関する知識を深め、保護者と連携したアレルギー対策を徹底するとともに、給食センターと連携した「食育」授業を実施し、健康教育を推進する。

6 健康教育の推進

- ・自分が健康であるために、自分の体調を管理すること、手洗いや消毒、マスクの着用等を自分で判断することができる指導を推進する。

7 特別支援教育の視点をもって、一人一人を育成する。

- ・特別支援教育コーディネーターを核とした特別支援校内委員会、児童に寄り添ったいじめ不登校対策委員会を中心に教職員が組織的に動き、児童一人一人を大切に安心・安全な学校とする。

- ・学校生活支援シート及び連携型個別指導計画を作成し、個に応じた指導の充実を図る。

- ・生活指導夕会や特別支援全体会、特別支援校内委員会の充実

- ・特別支援教室「ひばり」と連携し、子供一人一人を大切に細やかな教育を図る。

【数値目標】 あいさつを自分からしている。(児童)90%以上

先生は、私が困った時、私の話を聞いて受け止めてくれます。(児童)95%以上

児童の声に耳を傾け、しっかり受け止めている。(保護者)95%以上

【保護者・地域との連携】

◇スクール・コミュニティ協議会を核として、学校・家庭・地域が協働して、児童の教育活動の充実、地域での健全育成、地域の活性化を推進する。

◇是政府中囃子保存会と連携し、地域の自然・歴史・伝統文化について学ぶことを誇りや喜びと感じられる教育活動を充実する。

◇地域の協力のもと、学校田での稲作体験、学校園での野菜栽培などを行い、日本の伝統文化である稲作のよさや栽培の喜びについて学ぶ機会を設定する。

- ◇読み聞かせボランティアによる朝読書での読み聞かせを通して、本に親しみ、読書の楽しみを知る児童を育てる。
- ◇府中第九中学校と連携し、義務教育9年間を見通した教育活動を推進する。
- ◇地域の幼稚園や保育園の園児への学校案内や共に遊ぶ活動を通して、就学前教育機関等と連携した取り組みを行う。
- ◇児童の登下校の見守り等の「わがまち支えあいの会」と連携する。
- ◇青少年対策第九地区委員会の活動に積極的に関わり、地域の児童を地域とともに育てる。
- ◇地域の行事や府中市の公募作品にめあてをもたせて取り組む

【地域行事】

青少年対策第九地区委員会行事、府中市自転車競技大会、フォーリスカップ、是政文化センターまつり等

【公募作品】

青少年健全育成標語コンクール、ロータリー作文、人権作文、税の書道展、交通安全に関するコンクール等

【数値目標】 学校の方針、教育活動、児童の様子を積極的に伝える。(保護者)90%以上

【危機管理体制の充実】

- ◇毎朝の昇降口での安全のための見守り
- ◇教育活動実施中の校内の安全のための校門の施錠や来校者への受付や名札着用の徹底
- ◇通学路の安全点検の実施
- ◇週番による休み時間の校庭、校舎内の見守り
- ◇様々な想定での避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応訓練、セーフティ教室、集団下校訓練、地域と連携した防災教育・避難所開設訓練の実施
- ◇校内・地域安全点検の実施
- ◇職員の危機管理意識の高揚、危機管理システムの確立

【数値目標】 通知やメールなどで、児童の安全にしっかり取り組む。(保護者)95%以上

【教職員の連携】◇府中第八小学校の教育力の強化

- ◇学年で学年の児童を育成する。学年主任を中心とした学年経営の充実
 - ・学年、学校のルールの一貫化(学習面、生活面)
 - ・児童理解を中心とした温かな学校・学年・学級作りを目指す
 - ・児童に寄り添った児童理解(「朝・昼・放課後は児童と共にある。」)による、温かな人間関係の構築
 - ◇OJTを充実させ、教員同士の学び合いを活性化し、教員の資質能力の向上を図る。
 - ◇担任と専科教員の連携を強化し、協働して児童の教育に取り組む。
 - ◇教員と事務主事、用務主事等の全教職員の連携
 - ・経営支援部を要として、教職員が一体となって児童の教育に取り組む。
 - ・限られた学校予算を有効に児童の教育に活用するため、事務室との連携を重視する。
 - ◇ライフワークバランスを意識した仕事の在り方を目指す。日々退勤時刻を意識した取り組みを行う。
 - ◇電話や来客には、自分が学校の顔であるとの意識で、丁寧に対応する。
 - ・電話では、必ず自分の立場、名前を明確にする。「〇年〇組担任の〇〇です。」等
 - ・来校者(保護者含む)へのあいさつの励行
 - ◇全教職員のチームワークを重視する。
 - ・報告・連絡・相談を徹底する。
 - ・管理職へ、学年主任へ、分掌主任へ
- 悪いことは必ず対応する前に報告を！事後報告は×

- ・服務事故は絶対に起こさない。
机上、教室の整理整頓
個人情報持ち出しルールの徹底
呑んだら乗らない。自転車・自動車 ※自転車のヘルメットの着用を推進する。
- ・いつも人材育成・府中八小の良さを引き継ぐ意識で職務を！

【数値目標】 来校対応、電話対応、連絡帳対応を誠実に行う。(保護者)90%以上

【創立70周年の取組について】

(1)目的

- ・地域の学校・府中第八小学校創立 70 周年を児童、保護者、卒業生、地域住民で共に祝う機会とする。
- ・伝統を築き、支えてくださった卒業生、地域住民の皆様への感謝の創立 70 周年
- ・児童、保護者、地域協力者(歴代 PTA 役員、卒業生等)、教職員が一体となり、本事業を計画・推進する 70 周年

【児童が誇りに思える 70 周年】

- 市・地域住民の協力や卒業生、保護者の努力により発展し、充実してきたことを理解し、感謝の気持ちを表す 70 周年
- 児童が主体的に関われる、人の手のぬくもりが伝わる心のこもった創立 70 周年
- 児童が自分の学校や地域の歴史、よさを感じ、誇りに思える創立 70 周年
 - ・児童の年間学習計画の中に創立 70 周年に関わる学習を位置づけ、地域の方などのゲストティーチャーをお迎えした学習の発表などを見学集会や掲示を通して行うようにする。
 - ・式典等に参加される人々と接することによって、学校が多くの方々によって支えられていることが実感できるようにする。

(2)記念事業の概要

- ・創立 70 周年児童集会(11月24日(月)、記念イベント)
- ・創立 70 周年記念式典(6 年生代表参加、アトラクション)11月27日(金)14時30分から
- ・創立 70 周年記念学校行事(記念子供の集い、記念運動会、記念音楽会等)
- ・記念誌の作成
- ・記念品等の選定
- ・その他記念事業

(3)記念事業実行委員会組織(案)

①役員会(委員長、副委員長、PTA 会長、校長、副校長、周年担当主幹、周年キャップ)

②実行委員会組織(案)

- (1)総務・式典 【教務部】
- (2)記念誌 【研究開発部】
- (3)記念事業(航空写真、児童集会、学校行事、その他記念事業)【特別活動部】
- (4)環境・記念品(校内整備、歴史コーナー掲示、地域学習発表掲示、記念品選定等)【生活指導部】
- (5)庶務・財務 【事務】

【重点目標を達成するための学校組織】

① 学校組織の活用

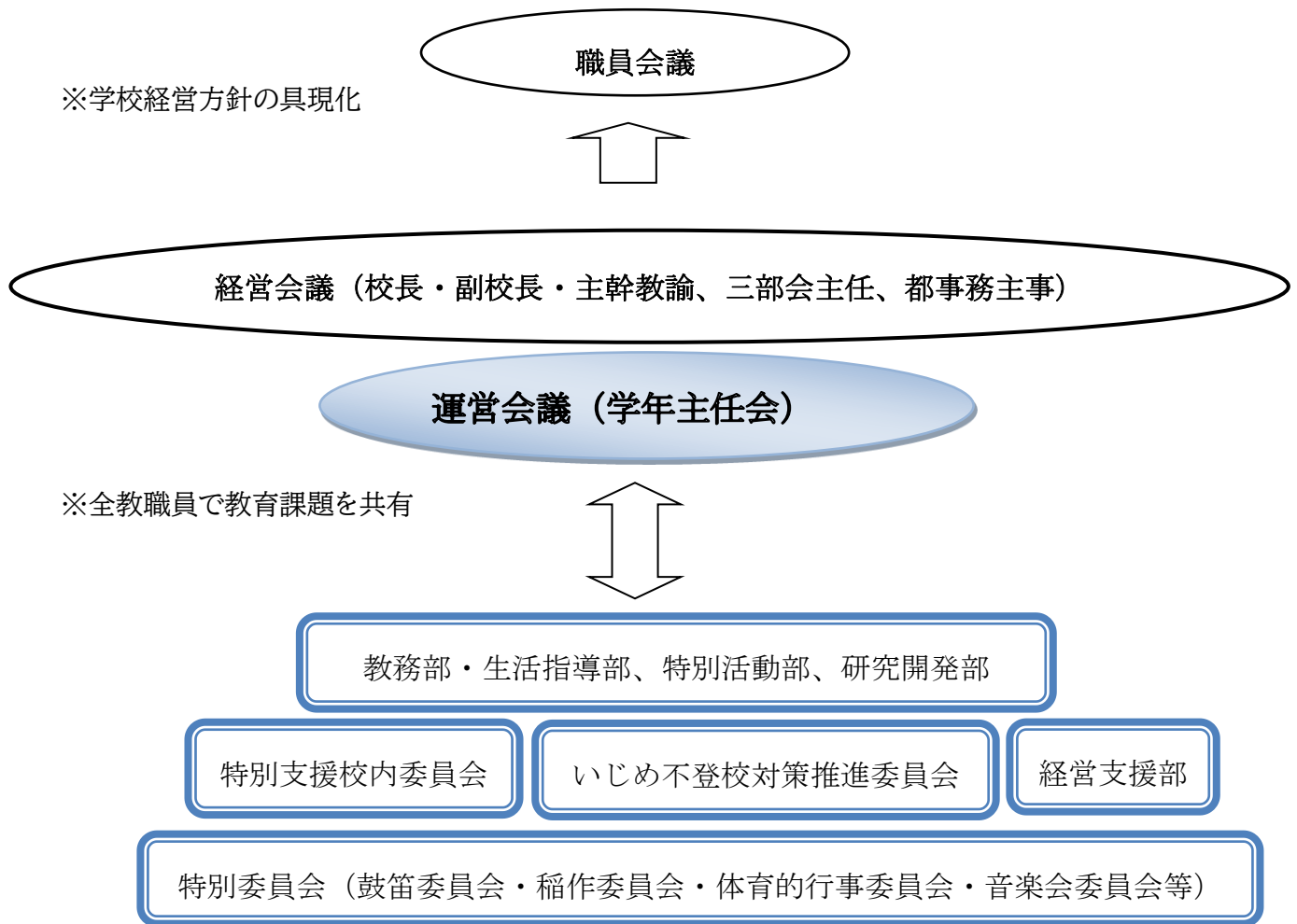
- ・様々な教育課題に組織的に対応するため、教員が創造的で活気ある学校組織を目指し、教務部・生活指導部・特別活動部・研究開発部を置く。
- ・特別支援校内委員会、いじめ不登校対策委員会、食物アレルギー対策委員会を設置し、児童にとって安心、安全な居場所である学校にする。そのために、特別支援教室「ひばり」、関係機関との連携を密にする。

・経営会議、運営会議、経営支援部を要に組織的に教育課題、人材育成に取り組む。

② 学校組織

◇経営会議において学校経営方針の具現化のための道筋を示し、各分掌組織で具体化

◇運営会議等、全教職員によるコミュニケーションの充実を図りながら取り組むチーム重視



③ 学校支援員、サポートルーム支援員、学校と家庭の支援員、副校長等校務改善支援員等の活用

【活用方針】

・児童が意欲的に学習に取り組み、充実した学校生活にするため、学校経営支援等の予算を活用し、きめ細やかな指導を実現する。

・教職員の校務改善を進め、学校経営に参画できる体制を整え、一層の学校教育の充実を図る。

【活用方法】

・担任との TT 指導や特に配慮を要する児童の個別指導のために学習支援員を配置

・図書館指導を充実させるため、図書館指導補助員を配置

・通常の学級の配慮を要する児童の補助のために、学校支援員を配置

・児童が安心して学校に通うためのサポートとしてのサポートルームの充実のためにサポートルーム支援員を配置する。

・教職員の校務の改善を図り、学校経営を一層円滑にするために、副校長等校務改善支援員を配置

④ 教職員の働き方改革を推進する。

◇学校組織の効率的な運用及び業務の効率化を図り、教職員の働き方改革を推進する。

・勤怠システムのスタートを最大限に勤務時間の意識化に活用する。

・カリキュラム・マネジメントを推進し、教育課程の行事の見直しや授業改善を行うことで教育の充実と働き方改革の両立を図る。

- ・校長の経営のもとで学年、学校の統一的な指導と教員一人一人の得意分野の指導を活かした教育活動を展開する。
- ・机上整理や資料整理の工夫により業務の効率化を図る。
- ・会議の精選・効率化を図る。